

# 小学校 第5学年 道徳科 学習指導案

北海道教育大学附属旭川小学校  
教諭 成田 翔

**主題名** 自他の権利を大切に

**教材名** 「図書館はだれのもの」(1時間)

**内容項目** C 規則の尊重

**本時の  
ねらい** みんなの態度や「わたし」の気持ちについて話し合うことをとおして、きまりやマナーの意義に気づき、自他の権利を尊重し義務を果たそうとする実践意欲と態度を育てる。

**指導時期** 9月ごろ

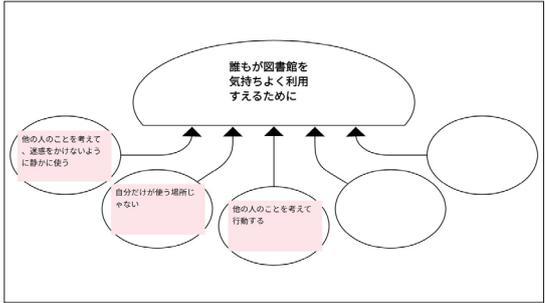
## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

指導者用デジタル教材ではさまざまな色で線を引いたり、消したりすることが容易となる。この利点を生かし、「いいな」や「よくないな」と思う部分にマーカーで線を引く活動を取り入れる。そうすることで、児童はなんとなくではなく、道徳的な視点をもって教材を読むことができる。さらに、範読後には指導者用デジタル教材を大型モニターに映し出すことで「共有」が即時的に可能となる。線を引いた部分について友達と交流することで、多面的・多角的に考えることができると考えた。

また、中心発問に対する考えを共有する場面では、「思考ツール」を活用し、大型モニターに大きく映し出しながら議論を進めていく。児童の思考がリアルタイムに可視化されることで、話し合いが活性化し、多面的・多角的な思考へと発展させることができると考えた。

## 本時の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時で扱う価値への導入を図る。  <b>T</b>：しらずしらずのうちに、きまりを破っていることはありませんか。  <b>C</b>：つつい廊下を走ってしまったことがある。  <b>C</b>：図書室から借りた本を返す期限を忘れてしまい、そのままにしまった。</li> <li>● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習支援ソフトウェアを活用し、事前アンケートの結果を提示する。</li> </ul>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『図書館はだれのもの』を読んで、感想を言い合い、交流する。</li> <li>◎：図書館で話をしている「わたし」たちが悪いと思うな。</li> <li>◎：なんで、ほかの部員は注意されたことに不満そうにしているのかな。</li> <li>◎：図書館には、私語をしてはいけないというルールがあるよね。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●きまりやマナーの意義や大切さについて考える。</li> <li>T：「わたし」は、何を言おうかと迷っているのでしょうか。また、それはなぜでしょうか。</li> <li>◎：不平・不満を言う前に、自分たちも反省したほうがよいということ。</li> <li>◎：「わたし」たちは自分のことしか考えられていなかったから</li> <li>◎：図書館を静かに使うというマナーが守れていなかったから。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>T：自分が「わたし」だったら、このあとどのようにしますか。</li> <li>◎：みんなが文句を言っていることに対して、「自分たちも反省しないとイケないかも」と伝える。</li> <li>◎：図書館を使う権利はあるけれど、周りの人たちの権利も考えないとイケないことをみんなに伝える。</li> <li>◎：図書館のきまりの意味をみんなで考えてみる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>T：誰もが図書館を気持ちよく利用するために、どんなことが大切なのでしょう。</li> <li>◎：他の人のことを考えて、迷惑をかけないように静かに使うこと。</li> <li>◎：自分だけが使う場所ではないことを意識して、常に他の人のことを考えて行動すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「いいな」と思った部分は青色、「よくないな」と思った部分は赤色のマーカーで線を引く。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>●短時間で教材の内容を共有するために、「指導者用デジタル教材」の二次元コードから「教材の解説」を開き、あらすじや登場人物を確認する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>●「指導者用デジタル教材」の思考ツール(クラゲチャート)を活用し、出された意見をまとめていく。</li> </ul> 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>T：身のまわりにあるきまりは、なんのためにあるのでしょうか。</li> <li>◎：廊下は走らないというきまりがあるのは、けがを防ぐためである。</li> <li>◎：優先席は、みんなでお年寄りや体の不自由な人たちを大切にするためにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館などの公共の施設で求められるマナーについて具体的にイメージできるように、教材末 (p.59) の二次元コードから「参考になるウェブサイト」を活用する。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習を振り返る。</li> <li>■：今日の学習で学んだことを振り返りましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習支援ソフトウェアで振り返りを記入するよう促す。</li> </ul>

## 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

道徳科では、道徳性を養うために、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的な諸問題について多面的・多角的に考えることが大切である。「指導者用デジタル教材」の効果的な活用は、「多面的・多角的に考える」ことのできる授業の実現に寄与すると考える。

本時においては「指導者用デジタル教材」の主に「書き込み機能」と「思考ツール」を活用した。教材を読む際、児童には「いいな」や「よくないな」と思うところに色を分けて線を引くように指示する。そして、教材の範読後に「書き込み機能」を活用し、「いいな」や「よくないな」と思った部分について児童の意見を聞きながら、「指導者用デジタル教材」上にマーカーで線を引いていく。そうすることで、「人によって感じ方が違うんだ。」「やっぱり○○の部分はみんなよくないって思うんだな。」など、リアルタイムに多様な考えを共有することができる。さらに、「なぜそのように感じたのか。」「なぜ○○の部分に線を引いたのか。」などについて話し合うことを通して、多面的・多角的に考えることができる。

また、「指導者用デジタル教材」の活用により、「思考ツール」を簡単に提示することができる。大型モニターに大きく映し出した状態で、目的に応じた思考ツールを即座に選択し、多様な考えを可視化することで、自他の意見を視覚的に捉え、比較したり関連付けたりしやすくなり、多面的・多角的な思考へと発展していくことが期待できる。さらに、作成したものはデータとしての保存が可能なので、学習支援ソフトウェアを活用して学習履歴（スタディ・ログ）を蓄積できることもメリットの一つである。

## 学習者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

### 【児童が書き込みたいときに書き込むことができる】

ペンツールがあるため、児童は考えを書きたいときに記入することができる。教師側が意図的に「考えを書きましょう。」と指示を出して記入させることもできるが、児童が書きたいときに、書きたい場所に記入することもできる。

個別最適な学びとして、発問に対してノートを使いたい児童やタブレットに書き込みたい児童などそれぞれの学びに合わせて選択できるよさもある。

### 【ワークシートの活用】

「学習者用デジタル教材」には、発問部分に対応したワークシートが用意されている。タブレットを使って入力するだけでなく、紙で提出させたい場合には、印刷して授業の中で活用することもできる。教師側の授業のスタイルや児童側の学習のスタイルに合わせて、必要なコンテンツを取捨選択して活用することができる。